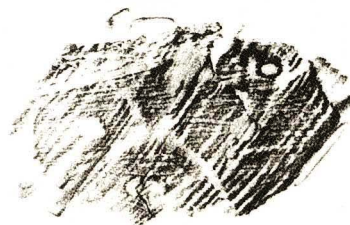


詩集

あだ花と小さな希望

(二十世紀の日本人へ)

山中陽子



砂子屋書房

詩集
あだ花と小さな希望

(二十世紀の日本人へ)

山中陽子



詩集 あた花と小さな希望

二〇〇二年一月二四日初版発行

著 者——山中陽子

神奈川県鎌倉市玉縄五―三―一二 ㊤二四七―〇〇七一

発行者——田村雅之

発行所——砂子屋書房

東京都千代田区内神田三―四―七 ㊤一〇一―〇〇四七

電話〇三―三二五六―四七〇八 振替〇〇―三〇―二―九七六三一
URL <http://www.2ocn.ne.jp/~sunagoya/>

印刷——内外文字 製本——並木製本

© 2002 Yoko Yamanaka Printed in Japan

序

あの海は、

あの海は、かっらっからの海、

責任はとっているが、
一言もしゃべってない。

がらんどで、声だけがひびく
月面に見えた海の豊饒。

三つの島からきた風来坊の
鋭い刃物でひと突きの快感、

死者の衣の落した影たち

の織りなす紋様のコピー

にすぎない、

と、そこまでひどくはなかった。

有名な山寺の修行僧のどうしてこんな町中に！
あのときの破顔一笑顔のど真ん中へ、

劇場の通路からロビーへ角を曲がって
見ればあわや、はまりそうで踏み止まった。

なにごともしなかったように
テーブルのチャシに手を伸ばし、

なにごともしなくだんの人物も一枚とった。

《海よ、おまえが》

じっさいに航海に出てその航海それ自体を映画にしたという話だった。

身を捨てるほどの祖国を
見失っていた二人、

再び見つかる望みを捨てた側を受け持って死まで演出した一人と、
待ちくたびれて滅び去りがてらが歌になった一人、

とある二人の死者の衣も
三途の川を渡ったことか。

セーラー服を脱ぎ出た日からずっと、
足は地に付けて歩いてきたが、

見つけられるはずのなかった、
本当の海。

足元から逃げ回って
塔を目指す人々

にも眼を回し、うつむき加減に
国境線ばかり気にかけてきたのだった、
という。

おもて 面を上げるまでに

二〇〇二年一月元旦から三〇日の間に起きた作品群に『臉を忘れた海のめざめ』以後十年間の作が若干加えられ本書の製作が始まった。

夜明けに向かって自らのせいで身を削るめざめからの伝言としてその一冊をここに提出した、ということになって、そのままだが、

著者の自我突進の弊害が見本になってしまっただけにある。道理ではじめにすら出たはずだったか、起きた作品群はしばらく求心力よりも駆動力にたっていた。

暗闇のメモから直にワープロ印字へと移され、
著者の時間経済上の生活苦から、頭と身体の持久力から、
草稿の手書きを辿るいとまを与えられなかった。

読み返すと反芻は途絶えがちに、つぎの作品芽生えの下地へ。

平仮名多用に構わず推敲後回しに、結局走ってきて、

校了寸前の土壇場で大量赤入れを申し出る羽目になった。

鬼編集者の沈黙と忍耐へ、畏敬の念と共に許しを乞う、
作品提出に迷いが無かったというだけで「これが決定稿です」とは、
あいさつとしてもはや撤回できない。

二〇〇二年九月三十日、
著者しるす。

詩集

あだ花と小さな希望

目次

序

あの海は、²

面^{おもて}を上げるまでに
6

わけもなく
19

一度で沢山
20

こもりうたのように (On “Like A Lullaby”)

家出人
25

誘惑人
26

宿題
28

サッカーを知ってる？
30

努々^{ゆめゆめ}クローン軍団記
32

手鏡
34

山道の登り下りで考えた
36

二つの約束 40

とある人物の記憶の底が割れて 43

身代わり山羊と遊園地 44

公平 48

電話 50

あなたはまだ若いから？ 52

ころよりも 54

音楽 55

女のおとなになりたくなかった 56

面々広間をあとに 60

反自立人 62

嘘つき？ 65

こんなわたしだからと言って 66

何が彼女を彼の女に仕立て上げたか

バベルの塔の話から 72

一枚舌と幾枚舌のおはなし 80

折り返し点 82

宿題の地図 86

不適材不適所 88

こたないです 90

ペンキ汚れごみ 92

先生の話 94

鴉 96

第四の福音 100

同じように 102

プロペラと歯車のお喋り 104

しきい
閾とバリアフリー 108

すれすれ 110

表札	114
茄子	116
出現	118
ある時われらが出合った	120
眠る	122
リフレッシュ・ザ・コメディアン	124
虚心家族	129
虚大親族通り	130
父再会	132
母はわたしの夢の中で小さかった	134
静かな海に	136
わかばホール	138
ついに入院しても	140
石段	141

皆は死なないから	142
姑、行年九十五	146
貰ひ柚子	150
北山杉天景	152
結局は最後まで話を	155
笑ってはならない話	156
は？	157
土に返して土へ	158
愛してできるしごととは	160
冬のことば（自らによるコラージュの試み、一九九二）	168
文旦	171
薄明の時代（一九七八、再び）	172
宇宙のいのちたち	174
無限大	178